

齋藤茂吉全集

第三十三卷

齊藤茂吉全集

第二十二卷

第九回配本（全三十六卷）

齋藤茂吉全集 第二十二卷

定價 千六百圓

昭和四十八年九月十三日發行

著者 齋藤 茂吉

發行者 岩波 雄二郎

發行所 東京都千代田區一ツ橋二丁目五番五號
株式會社 岩波書店

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

評
釋
一

目次

萬葉秀歌	一
目次	三
參照註釋書略表	三七
序	三九
萬葉秀歌	四三
新選秀歌百首	四七三
自序	四七五
目次	四七七
新選秀歌百首	四八七

正岡子規の歌二十首……………五六七

正岡子規の歌十首……………五八九

後記……………五九七

上期の歌……………五九九

舒明天皇……………六〇一

中皇命……………六〇七

額田女王……………六二四

天智天皇……………六三〇

持統天皇……………六三六

軍王……………六三九

鏡女王……………六三九

吹莢刀自……………六四一

麻績王……………六四二

日本婦人の歌……………六四五

日本婦人の歌草稿	七三七
天降言抄	七五三
良寛和尚の歌	七九一
後記	八三五

萬葉秀歌

目次

序	三
---	---

卷第一	四
-----	---

番 號	初 句	二 句	作 者	
〔四〕	たまきはる・うちのおほぬに		(中皇命)	四
〔六〕	やまごしの・かぜをときじみ		(軍王)	四
〔七〕	あきのぬの・みくさかりふき		(額田王)	四
〔八〕	にぎたづに・ふなのりせむと		(額田王)	五
〔九〕	きのくにの・やまこえてゆけ		(額田王)	五
〔二〕	わがせこは・かりほつくらす		(中皇命)	五
〔三〕	わがほりし・ぬじまはみせつ		(中皇命)	五
〔四〕	かぐやまと・みみなしやまと		(天智天皇)	六
〔五〕	わたつみの・とよはたぐもに		(天智天皇)	六

〔一八〕	みわやまを・しかもかくすか	(額田王)	………	六
〔二〇〕	あかねさす・むらさきぬゆき	(額田王)	………	六
〔二二〕	むらさきの・にほへるいもを	(天武天皇)	………	七
〔二三〕	かはかみの・ゆついはむらに	(吹黄刀自)	………	七
〔二四〕	うつせみの・いのちををしみ	(麻績王)	………	七
〔二六〕	はるすぎて・なつきたるらし	(持統天皇)	………	七
〔三〇〕	ささなみの・しがのからさき	(柿本人麿)	………	七
〔三一〕	ささなみの・しがのおほわだ	(柿本人麿)	………	七
〔三三〕	いにしへの・ひとにわれあれや	(高市古人)	………	八
〔三六〕	やまかはも・よりてつかふる	(柿本人麿)	………	八
〔四〇〕	あごのうらに・ふなのりすらむ	(柿本人麿)	………	八
〔四二〕	しほさゐに・いらごのしまべ	(柿本人麿)	………	八
〔四三〕	わがせこは・いづくゆくらむ	(當麻麿の妻)	………	八
〔四四〕	あきのぬに・やどるたびびと	(柿本人麿)	………	八
〔四六〕	ひむがしの・ぬにかぎろひの	(柿本人麿)	………	八
〔四九〕	ひなみしの・みこのみことの	(柿本人麿)	………	八

卷第二

〔五〕	うねめの・そでふきかへす	(志貴皇子)	八
〔七〕	ひくまぬに・にほふはりはら	(長奥鷹)	九〇
〔五〕	いづくにか・ふなはてすらむ	(高市黒人)	九四
〔六〕	いざこども・はやくやまとへ	(山上憶良)	九六
〔六〕	あしべゆく・かものはがひに	(志貴皇子)	九八
〔五〕	あられうつ・あられまつばら	(長皇子)	九九
〔七〕	やまとには・なきてかくらむ	(高市黒人)	一〇一
〔七〕	みよしぬの・やまのあらしの	(作者不詳)	一〇三
〔六〕	ますらをの・とものおとすなり	(元明天皇)	一〇四
〔七〕	とぶとりの・あすかのさとを	(作者不詳)	一〇五
〔八〕	うらさぶる・ころさまねし	(長田王)	一〇七
〔八〕	あきさらば・いまもみるごと	(長皇子)	一〇八
〔八〕	あきのたの・ほのへにきらふ	(磐姫皇后)	一一一
〔九〕	いもがいへも・つぎてみましを	(天智天皇)	一一三

〔九三〕	あきやまの・このしたがくり	(鏡王女)	………	二四
〔九四〕	たまくしげ・みむろのやまの	(藤原鎌足)	………	二六
〔九五〕	われはもや・やすみこえたり	(藤原鎌足)	………	二七
〔一〇三〕	わがさとに・おほゆきふれり	(天武天皇)	………	二九
〔一〇四〕	わがをかの・おかみにいひて	(藤原夫人)	………	三〇
〔一〇五〕	わがせこそ・やまとへやると	(大伯皇女)	………	三一
〔一〇六〕	ふたりゆけど・ゆきすぎがたき	(大伯皇女)	………	三三
〔一〇七〕	あしひきの・やまのしづくに	(大津皇子)	………	三三
〔一一〕	いにしへに・こふるとりかも	(弓削皇子)	………	三四
〔一二六〕	ひとごとを・しげみこちたみ	(但馬皇女)	………	三六
〔一三三〕	いはみのや・たかつぬやまの	(柿本人麿)	………	三七
〔一三三〕	ささのはは・みやまもさやに	(柿本人麿)	………	二六
〔一三六〕	あをこまの・あがきをはやみ	(柿本人麿)	………	三〇
〔一四一〕	いはしろの・はままつがえを	(有間皇子)	………	三一
〔一四二〕	いへにあれば・けにもるいひを	(有間皇子)	………	三三
〔一四七〕	あまのはら・ふりさけみれば	(倭姫皇后)	………	三五

目次

〔四八〕	あをはたの・こはたのうへを	(倭姫皇后)	……	一三七
〔四九〕	ひとはよし・おもひやむとも	(倭姫皇后)	……	一三八
〔五八〕	やまぶきの・たちよそひたる	(高市皇子)	……	一四〇
〔六一〕	きたやまに・つらなるくもの	(持統天皇)	……	一四二
〔六三〕	かむかぜの・いせのくににも	(大來皇女)	……	一四三
〔六五〕	うつそみの・ひとなるわれや	(大來皇女)	……	一四五
〔六六〕	いそのうへに・おふるあしびを	(大來皇女)	……	一四五
〔六九〕	あかねさす・ひはてらせれど	(柿本人麿)	……	一四六
〔七〇〕	しまのみや・まがりのいけの	(柿本人麿)	……	一四七
〔八四〕	ひむがしの・たぎのみかどに	(日並皇子宮の舍人)	……	一四八
〔八九〕	あさひてる・しまのみかどに	(日並皇子宮の舍人)	……	一四八
〔九五〕	しきたへの・そでかへしきみ	(柿本人麿)	……	一五〇
〔一〇三〕	ふるゆきは・あはになふりそ	(穗積皇子)	……	一五一
〔一〇八〕	あきやまの・もみちをしげみ	(柿本人麿)	……	一五二
〔一一八〕	ささなみの・しがつのこらが	(柿本人麿)	……	一五四
〔一二二〕	つまもあらば・つみてたげまし	(柿本人麿)	……	一五五

〔三三〕 かもやまの・いはねしまける (柿本人麿) …………… 一五

卷第三 …………… 一五

〔三五〕 おほきみは・かみにしませば (柿本人麿) …………… 一五

〔三六〕 いなといへど・しふるしひのが (持統天皇) …………… 一六

〔三七〕 いなといへど・かたれかたれと (志斐姫) …………… 一六

〔三八〕 おほみやの・うちまできこゆ (長意吉麻呂) …………… 一六

〔四二〕 たぎのうへの・みふねのやまに (弓削皇子) …………… 一六

〔五〇〕 たまもかる・みぬめをすぎて (柿本人麿) …………… 一六

〔五三〕 いなびぬも・ゆきすぎがてに (柿本人麿) …………… 一六

〔五四〕 ともしびの・あかしおほとに (柿本人麿) …………… 一六

〔五五〕 あまざかる・ひなのながちゆ (柿本人麿) …………… 一六

〔六二〕 やつりやま・こだちもみえず (柿本人麿) …………… 一七

〔六四〕 もののふの・やそうぢがはの (柿本人麿) …………… 一七

〔六五〕 くるしくも・ふりくるあめか (長奥麻呂) …………… 一七

〔六六〕 あふみのうみ・ゆふなみちどり (柿本人麿) …………… 一七

目次

〔六七〕	むささびは・こぬれもとむと	(志貴皇子)	一五
〔七〇〕	たびにして・ものこほしきに	(高市黑人)	一六
〔七二〕	さくらだへ・たづなきわたる	(高市黑人)	一六
〔七五〕	いづくにか・われはやどらむ	(高市黑人)	一六
〔七七〕	とくきても・みてましものを	(高市黑人)	一八
〔八七〕	ここにして・いへやもいづく	(石上卿)	一八
〔九七〕	ひるみれど・あかぬたごのうら	(田口益人)	一八
〔三八〕	たごのうらゆ・うちいでてみれば	(山部赤人)	一八
〔三八〕	あをによし・ならのみやこは	(小野老)	一六
〔三二〕	わがさかり・またをちめやも	(大伴旅人)	一七
〔三三〕	わがいのちも・つねにあらぬか	(大伴旅人)	一八
〔三六〕	しらぬひ・つくしのわたしは	(沙彌滿誓)	一九
〔三七〕	おくらは・いまはまからむ	(山上憶良)	一九
〔三八〕	しるしなき・ものをおもはずは	(大伴旅人)	一九
〔五八〕	むこのうらを・こぎたむをぶね	(山部赤人)	一九
〔七五〕	よしぬなる・なつみのかはの	(湯原王)	一九

〔三九〇〕	かるのいけの・うらみゆきめぐる（紀皇女）	一九八
〔三九六〕	みちのくの・まぬのかやはら（笠女郎）	一九九
〔四一六〕	ももつたふ・いはれのいけに（大津皇子）	二〇〇
〔四一八〕	とよくにの・かがみのやまの（手持女王）	二〇一
〔四一九〕	いはとわる・たちからもがも（手持女王）	二〇三
〔四三〇〕	やくもさす・いづものこらが（柿本人麿）	二〇三
〔四三二〕	われもみつ・ひとにもつげむ（山部赤人）	二〇三
〔四四六〕	わぎもこが・みしとものうらの（大伴旅人）	二〇四
〔四四九〕	いもとこし・みぬめのさきを（大伴旅人）	二〇五
〔四五二〕	いもとして・ふたりつくりし（大伴旅人）	二〇六
〔四七七〕	あしひきの・やまさへひかり（大伴家持）	二〇七
卷第四		
〔四八六〕	やまのはに・あちむらさわぎ（舒明天皇）	二〇九
〔四八八〕	きままつと・わがこひをれば（額田王）	二二二
〔五〇五〕	いまさらに・なにをかおもはむ（安倍女郎）	二二四